塵労

芥川龍之介

青空文庫

　或春の午後であつた。私は知人の田崎に面会する為に彼が勤めてゐる出版書肆の狭い応接室の椅子に倚つてゐた。

「やあ、珍しいな。」

　間もなく田崎は忙しさうに、万年筆を耳に挟んだ儘、如何はしい背広姿を現した。

「ちと君に頼みたい事があつてね、――実は二三日保養旁、修善寺か湯河原へ小説を書きに行きたいんだが、……」

　私は早速用談に取りかかつた。近々私の小説集が、この書肆から出版される。その印税の前借が出来るやうに、一つ骨を折つて見てはくれまいか。――これがその用談の要点であつた。

「そりや出来ない事もないが、――しかし温泉へ行くなぞは贅沢だな。僕はまだ臍の緒切つて以来、旅行らしい旅行はした事がない。」

　田崎は「朝日」へ火をつけると、その生活に疲れた顔へ、無邪気な羨望の色を漲らせた。

「何処へでも旅行すれば好いぢやないか。君なぞは独身なんだし。」

「所が貧乏暇なしでね。」

　私はこの旧友の前に、聊か私の結城の着物を恥ぢたいやうな心もちになつた。

「だが君も随分長い間、この店に勤めてゐるぢやないか。一体今は何をしてゐるんだ。」

「僕か。」

　田崎は「朝日」の灰を落しながら、始めて得意さうな返事をした。

「僕は今旅行案内の編纂をしてゐるんだ。まづ今までに類のない、大規模な旅行案内を拵へて見ようと思つてね。」

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
　　1971（昭和46）年10月5日初版第5刷発行
入力校正：j.utiyama
1999年2月15日公開
2003年10月7日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

塵労

芥川龍之介

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/